

## 2021年度兵庫県立播磨南高等学校3学期終業式式辞

### ウクライナ侵略戦争と権利・自由

2022.3.23

兵庫県立播磨南高等学校 校長 吉田尚美

漫画ドラえもん第1巻第8話「ご先祖さまがんばれ」の中で、先祖の代わりに戦(いくさ)で手柄を立てることになったのび太は、初めて降り立った戦場でドラえもんを探ねました。「どっちのみかたをすればいいの?」「正しいほうをたすけなくちゃ」。ドラえもんは答えました。「どっちも自分が正しいと思ってるよ。戦争なんてそんなもんだよ。」

2022年2月24日、ロシアがウクライナへの軍事侵攻を開始しました。現在もウクライナへの侵略戦争は続いており、たくさんの民間人に犠牲が出ています。このウクライナへの侵略戦争については、ドラえもんの言う「どっちも自分が正しいと思ってる」はあてはまりません。なぜなら、ロシアは自分が正しいと思っていないからです。正しいと思っていないのでロシア国民に対しては「戦争など行っていない。特別軍事作戦だ。攻撃しているのは軍事施設のみだ。民間人は攻撃していない」と言っています。実際には病院や学校や住宅などが無差別に攻撃されていますし、世界中の人々が映像を通じてそのことを知っていますが、ロシア政府は全てフェイクニュースだと言って情報統制をしています。ロシア政府は自分が正しいと思っていないから、ロシア国民に正確な情報を流さず、嘘をつくのです。

他の地域でも紛争や戦争が起こっているのに、どうしてウクライナだけ大きく取り上げるのかと言う人がいます。私はその理由は、ドラえもんが言うように、戦争には双方が正しいと思っている理由があるけれど、ロシアのウクライナ侵略戦争にはロシア側に正しいと考えられる理由がないからだと思います。

フランスの小説家で哲学者のアルベール・カミュは「反抗的人間」という本の中でこう言っています。「誰かが勝手な振る舞いをして、境界線を越えてその権利を拡張しようとする時、人がそれに抵抗するのは「ものには限度がある」と感じるからである。その境界線をはさんで一つの権利と別の権利が向き合っており、互いを制限している。反抗の運動はそこでなされた許しがたい侵犯行為に対する決然たる「否」と、反抗する人間の側の「自分はそうする権利がある」という曖昧な確信というよりは気分にもとづいている」

世界中の人たちがウクライナ侵攻を許せないと感じるのは、ただ、ウクライナがかわいそうだからではありません。ものには限度がある、もしこんなことがまかり通れば、それによって失われるのは自分も含め、世界中の人々の権利や自由であると感じるからです。

ロシア国内で危険を顧みず戦争反対を訴える人たちを見て、私たちが心を動かされるのは、彼らがそうやって世界中の人々の権利や自由を守ってくれていると思うからです。

世界を動かしているのは「空気」です。空気を読むの「空気」です。世界中がウクライナ侵攻に見て見ぬふりをする空気になるか、絶対に許せないという空気になるかということです。私たちにでき

ることは、侵略戦争や人権侵害は絶対に許さないという空気を作ることです。戦争反対のメッセージを SNS に書かなくてもいいし、デモに参加しなくてもいい。少なくともウクライナ侵攻に関心を持ち続け、考え続けることです。それが世界を動かす空気になります。

ロシアのウクライナ侵攻は私たちにたくさんの問題を突きつけました。原子力発電所は戦争になれば核爆弾と同じ危険なものになるということ。正しい情報を得るために日頃から報道の自由を守ることがいかに大切かと言うこと。長期的に権力を握っている人や独裁者がいかに危険であるかということ。私たちはウクライナで起こっていることをよく知って、考えましょう。これは自分も含め人間の権利や自由という本質的なものを守る戦いなのです。自分たちの社会を守り、よりよい世界を作るためしっかり考えましょう。